

学術奨励賞受賞講演

日本、および日本で最もがん死亡率が高い青森県についてのがん疫学研究

弘前大学医学部附属病院 医療情報部
 松坂方士

日本がん登録協議会の学術奨励賞を受賞するにあたり、これまで行ってきたがん登録データを利用した日本および青森県についてのがん疫学研究を報告する。

1. Matsuzaka M, et al. Decreasing Burden of Gastric Cancer in Japan. *Tohoku J Exp Med* 2007;212(3): 207-19.

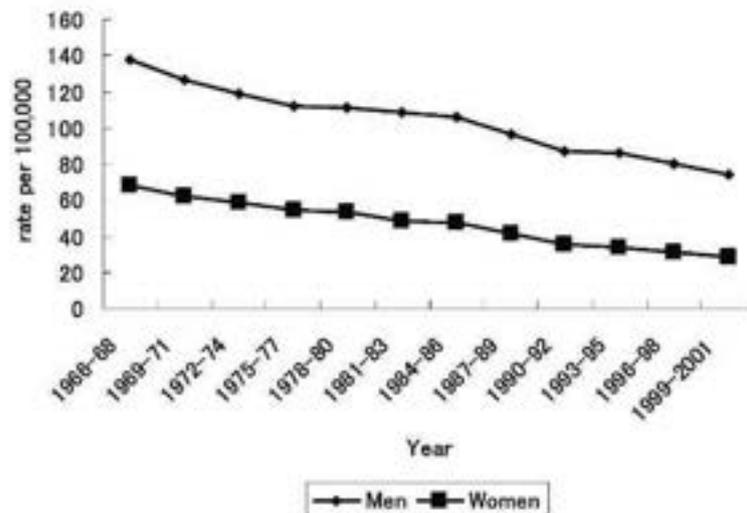


Fig. 1. Trends of age-adjusted incidence rates of gastric cancer in Osaka prefecture (standard population: 1985 Japanese model population).

大阪府を日本の代表とした場合の胃がん罹患率の推移、日本の胃がん死亡率の推移、世界各国の胃がん罹患率や日本からの移民の胃がん罹患率の推移などにより、今後、がん対策において胃がんの占める割合は小さくなるものと考察した。この論文の出版後、ヘリコバクター・ピロリの除菌療法が保険収載されたことなどから、当時考えていたよりも速いスピードで罹患率が減少する可能性が考えられる。

2. 松坂方士, 他. 喫煙関連がん、HPV 関連がんおよび主要部位がんにおける 1 年以内に診断されたがんにおける部位の組み合わせについての検討. *JACR Monograph* 2014;20:59-68.

		1 部位		2 部位		3 部位		4 部位	
		症例数	(%)	症例数	(%)	症例数	(%)	症例数	(%)
喫煙関連	口唇・口腔がん	168	(90.3)	18	(9.7)	0	(0.0)	0	(0.0)
	咽頭がん	139	(82.2)	29	(17.2)	1	(0.6)	0	(0.0)
	食道がん	417	(84.8)	64	(13.0)	11	(2.2)	0	(0.0)
	喉頭がん	126	(87.5)	16	(11.1)	2	(1.4)	0	(0.0)
	肺がん	2317	(92.9)	167	(6.7)	9	(0.4)	0	(0.0)
	小計	3167		294		23		0	
非喫煙関連		14795	(93.4)	972	(6.1)	70	(0.5)	4	(0.0)
合計		17962		1266		93		4	

症例数 (%)

ICD-10コード：口唇・口腔 C00-C08、咽頭 C09-C13 C140、食道 C15、喉頭 C32、肺 C33-C34

青森県で平成 21-22 年に診断されたがん症例のうち、3.4%が 1 年以内に 2 部位以上のがんが診断されていた。その中でも喫煙関連がんの組み合わせが多く、術前検査などの際には多重がんの存在を十分に

考慮する必要があると考えられた。

3. Matsuzaka M, et al. High Mortality Rate of Stomach Cancer Caused Not by High Incidence but Delays in Diagnosis in Aomori Prefecture, Japan. Asian Pac J Cancer Prev. 2016;17(10):4723-4727.

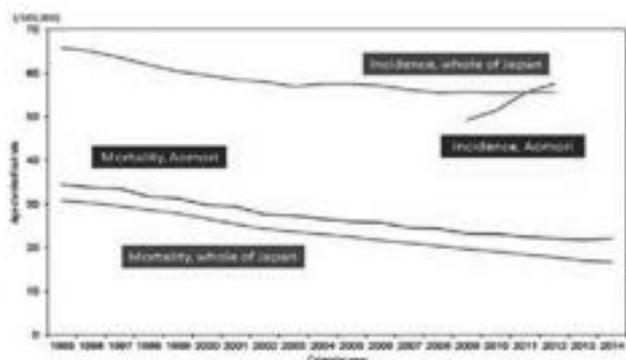


Figure 1a. Age-Standardised Incidence and Mortality Rates of Stomach Cancer Among Males in Aomori Prefecture and Whole of Japan

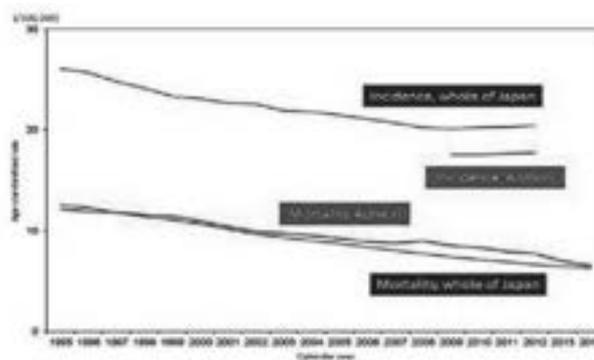


Figure 1b. Age-Standardised Incidence and mortality Rates of Stomach Cancer Among Females in Aomori Prefecture and Whole of Japan

青森県は最もがん年齢調整死亡率が高い県である。

この研究では胃がんに着目して、なぜ青森県のがん死亡率が高いのかを検討した。その結果、青森県のがん罹患率は全国と比較して高くなく、診断時病期が遅い症例の割合が高いことが明らかになった。また、他の調査から青森県のがん検診受診率は全国よりも高いことが分かっている。そのため、青森県のがん死亡率を低下させるためには、がん検診の精度管理を向上させることでがん検診の受診がこれまで以上にがん発見に結び付くように取り組む必要があると考えられた。

4. 斎藤拓, 松坂方士, 他. 青森県における大腸がんに対する医療資源の配分の検討. 弘前医学 2019;70(1):39-46.

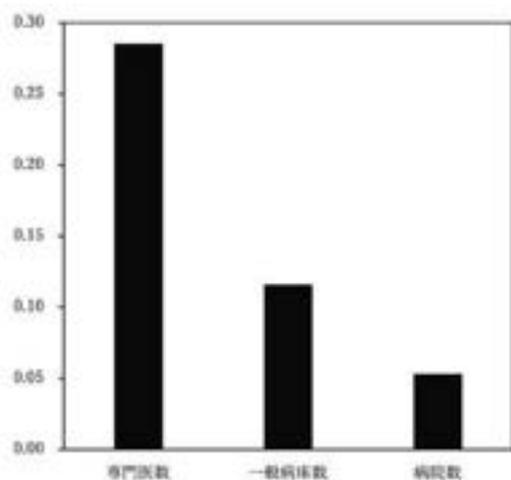


図3 青森県における専門医数、一般病床数、病院数のジニ係数

医学部生が学生実習でがん登録データを解析した結果を論文として執筆し、本学の学術雑誌に掲載されたものである。

青森県がん登録データから各二次医療圏の大腸がん有病者数を推計して医療需要の指標とした。消化器外科専門医数、一般病床数、病院数を医療供給の指標として、各二次医療圏での需要と供給の偏りをジニ係数とハーフィンダール・ハーシュマン係数で検討した。その結果、消化器外科専門医の偏りが最も大きく、医師の適正配置の必要性が明らかになった。ただし、現状では遠隔医療の導入や病-病連携の強化などによって一部の医療機関へのがん患者集中を緩和することが現実的であると考えられた。

今回の受賞は、青森県におけるがん登録の精度を維持し、がん疫学研究をさらに発展させるようにというご鞭撻であると受け止めています。今後とも、日本がん登録協議会を通して、がん登録データを利用したがん対策やがん疫学研究について情報発信していきたいと考えています。